

〈専〉YIC 京都工科自動車大学校学校関係者評価委員会議事録

会議名	2025 年度第 1 回学校関係者評価委員会
日時	2025 年 6 月 20 日（金） 13:30～15:15
場所	〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 1 号館 3 階 131 教室
参加委員	京都トヨペット株式会社 ネットトヨタ京華株式会社 執行役員統合管理副本部長 藤崎様 滋賀ダイハツ販売株式会社 本社管理リクルート室マネージャー 磯田様 いすゞ自動車近畿株式会社 人材開発室教育部部長 杉本様 事務局：佐々木校長、山根管理部長、澤総合支援室長、小林教務課長 ワザバ－：課長補佐三宅先生、一級自動車整備学科科長蒲田先生、自動車整備科科長住本先生、国際自動車整備科 竹下先生、管理部長補佐谷口、内部監査・IR 戦略室鳥井 欠席：一般社団法人京都府自動車整備振興会 専務理事 矢川様、株式会社レオタニモト 常務取締役 吉田様、京都トヨペット株式会社 吉田様
議長	藤崎委員
記録者	内部監査 IR 戦略室：佐藤
配布資料	委員会名簿、2024 年度〈専〉YIC 京都工科自動車大学校自己点検・評価結果、教育課程一覧、コース別カリキュラムマップ、カリキュラムマップ
進行	
1) 校長挨拶	本日はご多忙の折、ご参集賜り誠にありがとうございます。 学校関係者評価委員会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。 学校関係者評価委員会は運営が義務づけられております。外部の皆様方、率直なご意見をいただきながら学生の教育に反映させていきたいと思っております。 本日はこの学校関係者評価については、学校運営全般と法人運営に関する内容も出てまいります。忌憚のないご意見を寄せていただいて、私どもの運営の改善に役立てていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。
2) 関係者評価委員紹介	各委員挨拶
3) 教職員紹介	各教職員挨拶
4) 定員数確認および委員長の選出	第 7 条第 2 項のとおり 6 名中、3 名の出席で過半数以上の参加で本委員会は成立する。議長は藤崎委員を推薦、全員に承認された。
5) 配布資料等確認	資料読み上げ
6) 議題	1. 会議概要
	2024 年度の自己点検評価報告と 2025 年度の課題・重点項目について議論する学校関係者評価委員会が開催された。委員長に藤崎様を選出し、学校側と外部委員からの意見交換が行われた。
	2. 2024 年度の自己点検評価結果について 令和 6 年度の自己点検評価結果について ・「2023 年度〈専〉YIC 京都工科自動車大学校自己点検・評価結果」に基づき、教務科長の小林より以下の項目の自己点検評価結果について報告があった。自己点検評価は専門学校に義務付けられている。 ① 1. 教育理念・目標 ② 2. 学校運営 ③ 3. 教育活動 ④ 4. 学修成果 ⑤ 5. 学生支援 ⑥ 6. 教育環境 ⑦ 7. 学生の受入れ募集 ⑧ 8. 教育の内部保証システム ⑨ 9. 財務 ⑩ 10. 社会貢献・地域貢献 ⑪ 11. 国際交流

2. 2024 年度の課題と重点項目について

評価項目	項目番号	課題と今後の改善
1. 教育理念・目標	1-2	(1) 教育理念・目標 課題: 就職先の業界ニーズに合わせたスキルや資格の議論が不足。業界人としての考え方の教育が不十分。 評価: 「2」または「1」 (4 段階評価中) 改善策: コンプライアンス教育の導入を検討。「法的遵守はもちろん、自動車業界で働く者としての考え方、お客様の車をどう扱うべきか」といった基礎的な教育をカリキュラムに取り入れたい。」 1-2-1-1 さまざまな評価がある中、2 とした。 今後の課題: 就職先企業に求められる資格、技能 2 級自動車整備士、以外の資格がないということ 業界のヒヤリング、コンプライアンスは授業の取り組みにて改善、
2. 学校運営	2-4	2. 学校運営 課題 1: 非常勤講師との情報交換不足 4 月の非常勤講師懇談会以外に、全体での情報交換機会が少ない。「先生方忙しくて...できていないというのが正直なところ」 評価: 「1」 課題 2: コマシラバスの不備各科目の 90 分授業ごとの詳細なシラバス (コマシラバス) 作成が不十分。 評価: 「1」 改善策: 「教育の肝となる部分と捉えており、2025 年度のシラバスについて計画的に準備を進めている。」教員研修を通じて改善に取り組んでいる。 課題 3: 授業観察・アンケート結果の活用遅延授業観察は実施しているが、フィードバックがリアルタイムでできていない。 学生アンケートも実施しているが、集計に時間がかかり、フィードバックが遅れている。「リアルタイムの方できちんとやっていけるようにしないと意味がない」 評価: 「2」または「1」 課題 4: 学習教材の有効性および著作権表示の不備資格試験制度変更に伴う教育課程の見直しは行われたものの、昨年度はまだ対応しきれない部分があった。 学習教材のアセスメント実施が不十分。 教材の引用元表示など、著作権に関する情報提供が不十分な場合がある。「僕らのほうも気をつけてはやっているんですが、ちょっと抜けているところが正直ある場合もあるのかな」 評価: 「1」 2-4-4-1 評価 1 講師懇談会を 4 月に開催しているが、講師を定期的に開催することができていない。 実施後のエビデンスがないだけスケジュールを立てて取り組みたい 改善策として学校運営の課題、 授業の課題をコマシラバスに落とし込むことが不十分 エビデンスの整備までを取り組みたい
3. 教育活動		3. 教育活動 (課題: 卒業生の動向 (就職後の活躍や不足している点) の把握が不十分。 改善策: 総合支援課が卒業生の動向調査を行い、記録を蓄積していく。キャリアマップアプリを活用した調査を検討中。 3-2-3-1 カリキュラムの策定に取り組んでいるか各コマのコマシラバスが整備されているか評価 1 シラバスとコマシラバス授業計画が科目により不十分となっている。昨年、夏休みに研修があり、冬期にも取り組んだが不十分 3-2-2-2 質保証の取り組み 評価 2 相互授業観察に取り組み、教授力の改善に取り組んでいる 3-2-2-3 授業アンケートからの改善評価 2 年 2 回実施している。授業の質の改善 集計に時間がかかるリアルタイムの集計が課題。 3-2-6-1 学習教材の検討について評価 1 資格制度の改定から 3-2-6-2 3-2-6-4 著作権のルール 引用の抜け 要求事項と取り組みの齟齬 全体、教育全体の取り組みはシラバス、コマシラバスの整備
4. 学習成果	4-9	4. 学習成果 課題: 退学率軽減への取り組みが不十分。学生が相談しやすい体制の強化。卒業後の教育支援の拡充。 改善策: 教育力向上、クラス運営サポート、教員と総合支援課の定期的な情報交換を強化する。 卒業生の動向の把握が不十分 学んだあとの活躍、不足、総合支援で動向調査に取り組む告書の共有を徹底する。 とした。

5. 学生支援	5-12	5. 学生支援 課題: 退学率軽減への取り組みが不十分。学生が相談しやすい体制の強化。卒業後の教育支援の拡充。 改善策: 教育力向上、クラス運営サポート、教員と総合支援課の定期的な情報交換を強化する。 退学率の低減、卒後の調査教育、基礎学力の向上に取り組む。
6. 教育環境	6-4	6. 教育環境 教育環境 課題: 学生が利用できる参考図書や関連図書が不足。図書館のような専門書コーナーが充実していない。 改善策: 電子書籍の導入など、学生が主体的に学べる場の提供を検討。 6-1-2 図書について、充実度が低いとした 6-4: 自己学習に必要な図書室ないし図書スペースを設置しているかについては、377 教室に図書コーナーを設け貸し出し等を行っている。
7. 学生の受け入れ募集	7-7	7. 学生の受け入れ募集 課題: 多様性を持つ学生（学力補足や障害を持つ学生）への特別な配慮が不十分。 改善策: 多様性に関する研修の実施を継続し、教員・学生双方の理解を深める。 課題: 多様性を持つ学生（学力補足や障害を持つ学生）への特別な配慮が不十分。 改善策: 多様性に関する研修の実施を継続し、教員・学生双方の理解を深める。教務だけでなく、YIC 京都校全体で支援する体制を構築することも重要となる。
8. 教育の内部質保証システム	8-1 8-2	8. 教育の内部質保証システム 課題: 自己点検・評価結果に基づく改善計画の策定と実施が不十分な項目がある。特にシラバス・コマシラバスの整備がまだ不十分。 評価: 「1」 改善策: 「事業計画として、こういったところが不十分、シラバスが不十分という部分をもちろん改善等は進めていますが、まだ変革の途中であり、100%ではよい。」 8-4-5 自己点検評価の取り組みで改善の取り組みが不十分 実施と改善、エビデンスの生成、整備 授業計画、シラバス、コマシラバスの整備が不十分 改善に取り組んでいる最中
9. 財務		9. 財務 概ねできているとした
10. 社会貢献・地域貢献	10-2	10. 社会貢献・地域貢献 イベントを開催するも学生達は積極的に取り組んでいたが動員が少ない。HP や SNS を更に有効活用し周知・徹底し改善を図る。
11. 国際交流	11-3	11 留学生 11-1-3 対応について今年度から留学生準備室を設置し、専任スタッフで対応
3. 2025 年度の取り組み		
		募集状況と就職実績 (2024 年度実績)。 卒業生数:1 級自動車整備士科: 18 名 (就職希望者 17 名中 17 名就職, 100%) 自動車整備科: 58 名 (就職希望者 56 名中 56 名就職, 100%) 国際自動車整備科: 34 名 (就職希望者 32 名中 32 名就職, 100%) 資格試験合格率:1 級小型自動車整備士: 88.9% (18 名中 16 名合格) 2 級ガソリン自動車整備士: 90.5% (95 名中 86 名合格) 2 級ジーゼル自動車整備士: 98.8% (80 名中 79 名合格) 3 級自動車整備士: 93.3% (15 名中 14 名合格) 特記事項:2 級ガソリン自動車整備士の合格率が例年より低め。国際自動車整備科の学生は、問題の聞き方のニュアンスの変化に苦戦した可能性あり。
		在籍学生数と募集状況 (2025 年度見込み) 在籍数:1 級自動車整備士科: 61 名 (1 年生 14 名、2 年生 13 名、3 年生 18 名、4 年生 16 名) 自動車整備科: 100 名 (1 年生 50 名、2 年生 50 名) 国際自動車整備科: 160 名 (1 年生 74 名、2 年生 50 名、3 年生 36 名) 日本人学生と留学生がほぼ半々。 募集状況:1 級自動車整備士科は定員 (20 名) がほぼ埋まる状況。「4 年間しっかりと学んでから社会に出ようとする学生版が増えている」 自動車整備科も定員 (74 名) をはるかに超える応募が見込まれる。特に留学生のオープンキャンパス参加希望者が多い。

3. 2025 年度の課題・重点項目

		(1) 学校教育法の一部改正への対応 専門学校の教育内容を大学と同等のレベルに引き上げ、制度的な専門性を高めるための法改正。大学入学資格と同等の資格認定、単位数による学習時間の基準設定などが求められる。 今後、文部科学省と国土交通省の間で、単位制と時間制のすり合わせが必要になる見込み。 (2) 事業の質保証 (最重要項目) シラバス・コマシラバスの整備: 教育の質保証の軸として、詳細なシラバス・コマシラバス作成を計画的に進める。「まだできていないのが現状であり、ここをしっかりと 2025 年度に重点的にこなしていきたい。」 カリキュラムマップの見直し: 科目の履修順序を明確化し、学習の段階性を担保する。 学習計画の可視化: 学生が学習目標を理解し、計画的に学べるよう支援する。 定期試験の見直し: 評価方法の改善。 保護者・家族との連携強化: 多様化する学生への支援のため、本人だけでなく保護者との連携を密にする。
--	--	---

3. 2024 年度の取り組みへの意見等 (外部委員からのコメントと学校側の見解)

評価項目	項目番号	ご意見・質問 (委員)	回答 (事務局)
1. 教育理念・目標	1-2	杉本委員 評価項目とコメントの整合性について 評価が低い項目 (「1」) でも、コメントでは「適切に実施されている」と読める箇所があり、違和感がある	学校側の見解: 自己点検評価は「やっているかやっていないか」で評価されるため、内容の質までは問われない場合がある。しかし、学校としては「学生が科目概要を理解できないようなシラバスは絶対ダメ」という方針で、あえて低評価をつけ、改善を促している。 評価項目で「実施できているか評価が低い (1)」とされているのは、単に「やっているか否か」ではなく、学校としてその質に満足していないことを示している
		杉本委員 図書コーナーの充実について 図書コーナーは重要だが、スペースの問題もある。電子図書の活用など、学生が自律的に学ぶ機会を増やすことを提案。	学校側の見解: 学生からの要望は少ないが、電子書籍の導入などを含め、学習環境の充実に努める。
		中村委員 改革改善の評価が低い点について 全体的に改革改善に関する評価が低い。現場の教員同士のチェック体制や学生からの意見活用が進んでいないことが原因ではないか。 改革の必要性を現場が強く感じられるよう、学生の声などをフィードバックする仕組みの強化を提案。 中村委員からの質問・協力案 改革・改善に関する項目の評価が低い項目が多いことに注目。 現場の教員や学生の声 (例: 授業観察結果、学生アンケート結果) を改革・改善の目標や意義として捉え、モチベーションにつなげることで、より現場に即した改善が進むのではないかと提案	学校側の見解: 評価が低いのは、まさに「今年度から直していこう」「新しく作っていこう」という意図の表れである。 シラバス作成などは、専門学校ではこれまであまり行われてこなかったため、教員も慣れていないが、質保証のためには不可欠であり、今後も推進していく。 学校は「クーリングオフ」がないため、入学前に学習目標と概要を明確に示し、学生がついてこられない状況を防ぐ必要がある。 先生方は頭の中で授業構成を考えているが、それがテキストベースで示されてこなかった。今後は可視化が必須となる。
		杉本委員 コンプライアンス教育の具体的なイメージはどのようなものか	学校側の回答: 法令遵守だけでなく、自動車業界で働く者としての基本的な考え方 (例: お客様の車をどう扱うか) を教育課程に組み込む。
		杉本委員からの協力案 自身の会社では、社員が販売・整備した車を「凶器にしない」という観点から、交通違反の防止や預かった車を傷つけないための社内教育を 3 年間実	学校側の回答: 現時点では卒業後の教育は確立されておらず、キャリア相談や再就職支援などのサポートが主

			施していると説明。社会人としての徹底を継続する必要性を共有	
			杉本委員 「卒業後教育」とは、学校が卒業後も教育責任を負うのか、それともサポート体制のことか	小林 授業では取り組みを改善したい。
			杉本委員からの協力案：卒業生の動向（良い面・悪い面）について情報共有を希望する場合、個人情報に配慮しつつフィードバックを行うことを提案	学校側の回答：情報共有の重要性を認識。総合支援課が10月に企業連絡会を予定しており、キャリアマップアプリを卒業生調査にも活用する計画
4. 2025 年度の取り組み				
第三者評価と分野別評価の義務化：専門学校の自己点検評価は義務付けられているが、将来的には第三者評価や分野別評価も義務化される方向にある。「この自己点検をちゃんとやっておかないと、第三者評価とかその先の評価っていうのは、まあまああ災難の方がある」				
修学支援制度：質の高い教育を提供できない学校は修学支援制度の対象外となる可能性があるため、教育の質保証は必須。				
ハラスメント対策：教員間、教員から学生、学生から教員、さらには保護者からのハラスメントにも対応できるよう、マニュアル作成を含めた対策を強化していく。				
留学生支援：留学生向けの法的・学習支援のプログラムを文部科学省委託事業で開発中（AI を活用した教育など）。				
	評価項目	項目番号	課題と今後の改善	
			昨年度の自己点検評価結果に対してや学校運営に対するご意見、ご質問があればお願いします。	
	評価項目	項目番号	ご意見・質問（委員）	回答（事務局）
	全体		杉本委員からの協力案 自身の会社でも顧客からのハラスメントに対応しており、経験を共有できると示唆	ハラスメント対策：教員向けの研修は実施済み。今後は学生間、学生から教員、保護者から教員へのハラスメントにも対応するため、マニュアル作成が必要となる
	全体		杉本委員からの協力案：自身の経験も踏まえ、評価の厳しさが教員のモチベーション低下につながらないよう、改善の意義を明確にし、モチベーション高く取り組めるよう期待すると述べた。	学校側の回答：企業からの視点や理解を得ながら、教員のモチベーション向上にも努め、改善を進めていくと述べた
7) 総評	所感：本委員会では、専門学校を取り巻く環境の変化（法改正、第三者評価の義務化、少子化、留学生増加）に対応するため、教育の質保証が喫緊の課題であることが強く認識されている。特にシラバス・コマシラバスの整備、カリキュラムの見直し、学生・卒業生の動向把握、多様な学生への支援体制強化が重点項目として挙げられている。現状では改善途上の項目が多いが、「勝ち組に入る」という強い意志を持って、改革に取り組んでいる姿勢が伺える。 議長より、本日の議題が一通り終了したことが確認された 今回、学校関係者評価委員会に初めてご参加していただいた委員の方からもご質問やご感想をいただき大変ありがとうございました。			
8) 今後の予定	学校関係者評価委員会は今年度の委学校関係者評価委員会は年一回の実施のため、今年度はこれで終了となります。 学校運営等に関して、何か疑問、アドバイス等ありましたら、学校はいつでも受け付けております。委員会を開く必要があれば、臨時的委員会を、開催いたしますので忌憚のない意見を、いつでもいただければ、ありがたいと思います。（山根）			

以上